

春の農作業安全運動展開中

令和6年4月1日（月）～5月31日（金）

農作業事故を防ぐ 3つのポイント

1

作業環境に危険な場所がないか
確認し、改善・整備を行う！

2

シートベルト着用など、農業機械の
転落・転倒対策を徹底する！

3

家族や周りの人など、地域全体で
声をかけ合う！

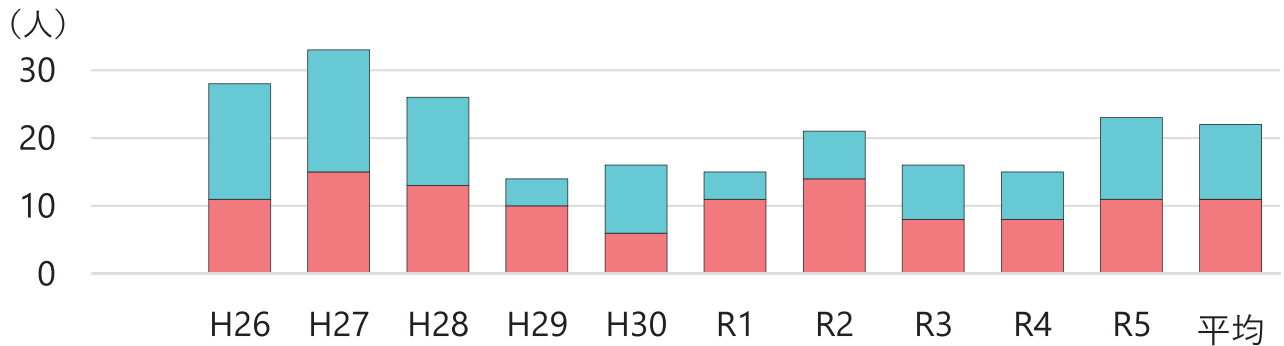
みんなで声がけ！安全確認！
急がず、焦らず、慎重に！

STOP!農作業事故



県内の農作業事故発生状況（H26～R5）

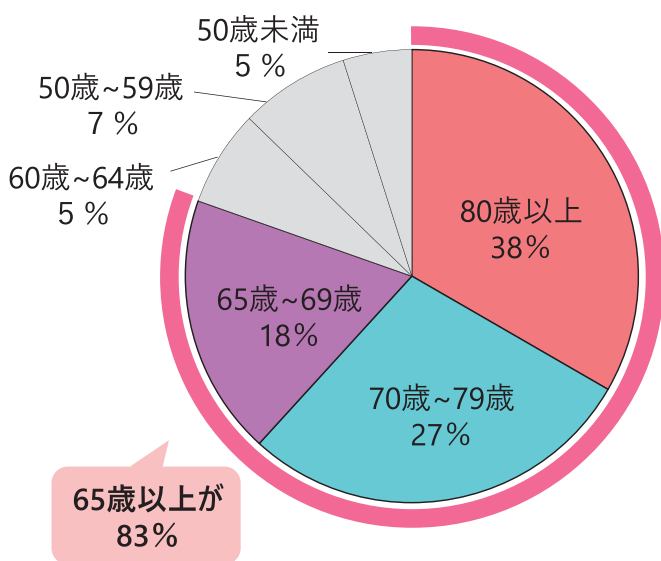
- 農作業事故による死者数は、過去10年間の平均で11人となっており、このうち約8割が65歳以上の方となっています。
- また、脚立、スピードスプレー、高所作業台車など、**果樹**の作業で使用する農業機械等での事故が約4割と多くなっています。



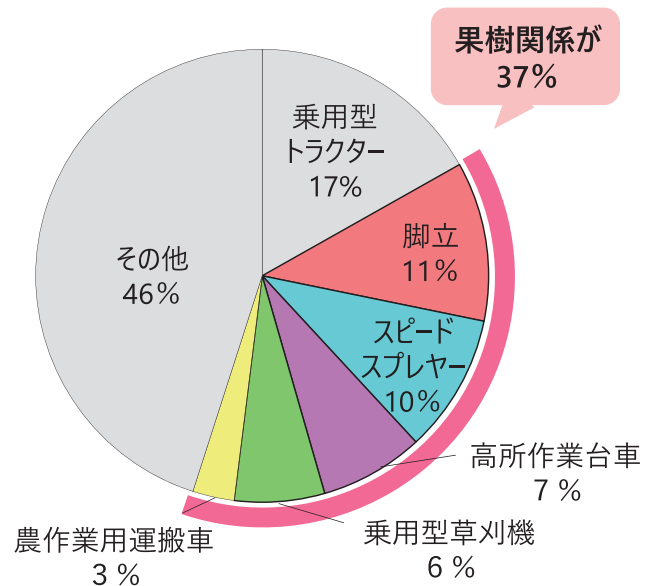
■ 事故件数(件)	27	32	26	14	16	15	21	16	15	23	21
■ うち死者数(人)	11	15	13	10	6	11	14	8	8	11	11

構造政策課調べ（R5は暫定値）

死者数の年齢別割合



機械等の種類別事故割合



過去10年間（H26～R5）累計 構造政策課調べ（R5は暫定値）

農業機械の転落・転倒事故から身を守るために

- ① 安全キャブ・フレームが付いたトラクターに乗りましょう
- ② シートベルトを着用しましょう
- ③ ほ場から退出する時には、左右ブレーキの連結を確認しましょう



令和6年度青森県農作業安全運動推進計画

1 目的

農作業安全に対する意識向上と安全啓発を強化するとともに、農業機械等の安全使用について注意を喚起し、農作業事故を未然に防止する。

また、近年増加傾向にある農作業中の熱中症を予防するため、新たに熱中症予防推進運動を実施し、熱中症対策の徹底を図る。

2 重点期間

- (1) 春の農作業安全運動：令和6年4月1日（月）～5月31日（金）
- (2) 熱中症予防運動：令和6年6月1日（土）～8月31日（土）
- (3) 秋の農作業安全運動：令和6年9月1日（日）～10月31日（木）

3 本県の農作業事故の傾向（過去10年）

- (1) 65歳以上の高齢者の割合が高く、死亡事故につながるケースが多い。
- (2) 乗用トラクターによる農作業事故が全体の16.7%を占めている。
- (3) スピードスプレーヤー、高所作業台車、乗用草刈機、脚立といった果樹で 사용되는機械・器具による事故件数が多い。
- (4) 本県の田畑・森林等※における熱中症の救急搬送人数は増加傾向にあり、令和5年は64名が救急搬送され、1件の死亡事故が発生した。

※消防庁「熱中症による救急搬送状況」のうち、発生場所が「仕事場②（田畑、森林、海、川等で農・畜・水産作業を行っている場合のみ）」のもの

4 農業者等に対する重点推進項目

(1) 高齢者の事故防止

<本人の対応>

- ①加齢により心身機能が低下することを踏まえ、無理のない作業を行う。
- ②長時間の連続作業を避けて、必ず作業の合間に十分な休憩を取る。
- ③一人での農作業は行わない。やむを得ず一人で作業する場合は、家族に作業場所や内容、帰宅時間等を告げ、携帯電話を所持する。

<家族の対応>

- ①加齢による作業・判断能力低下の度合いにより、機械操作や危険作業を行わないよう促す。
- ②農作業で「ヒヤリ」や「ハッ」としたことなどを日頃から家族で話し合う。

<地域での取組>

- ①農作業安全講習会への参加や周りで起こった事故などについて話し合うことにより日常の農作業に潜む危険性を再認識する。
- ②地域のみんなで、「気を付けて」などの声がけをし合う。

(2) 乗用トラクターの安全利用

- ①安全フレームやキャビン付きのトラクターの使用や、シートベルトの常時着用を推進する。

- ②田や畑の出入りや畦畔を越える時、狭い道路や路肩が不明瞭な道路を通る時には、転倒・転落に注意する。
- ③自動操舵システム等により自動走行する農業機械に搭乗する場合であっても、絶対に運転席を離れないで作業を行う。

(3) 果樹作業中の事故防止

- ①枝の成長や果実の重さ等の影響で前回作業時よりも枝が下がってしまう等、ほ場の作業環境が一定ではないことを認識し、事前の状況確認と余裕を持った環境整備を行う。
- ②スピードスプレー等乗用農業機械を使用する場合は、転倒・転落に注意し、速度の出し過ぎや急ブレーキ、急旋回をしない。
- ③脚立での高所作業においては、足場がしっかりしていることを確認し、届きにくいところに無理に手を伸ばさず、脚立を移動させて作業を行う。

(4) 熱中症予防

- ①天気予報等を参考に暑い日や時間帯を避け、無理のない範囲で作業する。
- ②帽子の着用・涼しい服装での作業に加え、定期的な休息・給水を心がける。
- ③空調服やミストファンなど、熱中症対策アイテムを活用する。

5 関係機関等による推進事項

(1) 県域段階

- ①農作業安全に関する指導者の育成
 - ア 国が主催する農作業安全に関するオンライン研修の受講による指導者の育成（対象者：普及指導員、JA営農指導員、農業機械整備士等）
 - イ 国が主催する短期研修への派遣
- ②農作業安全講習会等の開催
 - ア 農作業安全講習会の開催（委託先：青森県農業機械協会）
講習会の内容：農業機械の安全利用、対話型農作業安全研修
 - イ 高齢農業者が所有する農業機械の安全指導（委託先：同上）
 - ウ 営農大学校における農業機械利用技術者研修の実施
- ③農作業事故調査の実施
 - ア 青森県農作業事故調査
 - イ 農林水産省が実施する令和6年農作業事故調査（死亡個票調査）
 - ウ 国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が実施する農業機械（乗用トラクター、歩行用トラクター、刈払機）による事故詳細調査
 - エ 農林水産省が実施する農作業事故の情報収集（平成29年1月4日付け28生産第1512号農林水産省生産局長通知）
- ④農作業安全対策（熱中症対策を含む）に関する情報発信
 - ア 農作業事故調査結果を活用した農業者への注意喚起
 - イ 農作業安全重点期間前の報道機関への情報提供
 - ウ 農事情報（ラジオ）、生産指導情報、チラシ、ホームページ、県広報誌等の活用による啓発

⑤農作業安全対策重点推進地域の設定

令和6年度重点推進地域：中南地域

地区の事故状況	令和6年度の取組内容
<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年間の農作業事故発生件数を市町村別に見ると、弘前市が最も多い。 ・農作業事故の発生報告が多かった市町村（過去5か年：平成31年から令和5年） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域県民局による市町村、農協等と連携した農作業安全対策の推進 ・市町村、農協への安全啓発（広報誌等でのPR）の依頼 ・普及指導員等を対象とした研修への参加
弘前市（中南） 23件	
五所川原市（西北） 8件	
十和田市（上北） 7件	
黒石市（中南） 6件	
五戸町（三八） 5件	
平川市（中南） 4件	
南部町（三八） 4件	
六戸町（上北） 4件	
青森市（東青） 3件	
西目屋村（中南） 3件	
中泊町（西北） 3件	
三沢市（上北） 3件	

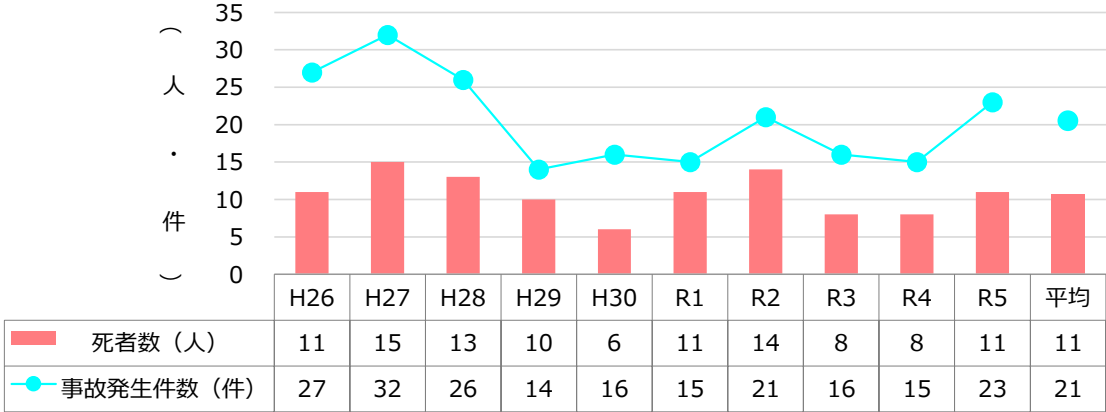
（2）各地域（地域県民局及び市町村・農協等）段階

- ①安全運動ポスターの掲示、チラシの配布、関係機関・団体の広報誌の活用等による事故防止の周知徹底
- ②農作業安全に関する指導者向け研修等への積極的な参加
- ③農作業安全に関する指導者（普及指導員、市町村職員、JA営農指導員等）による農作業安全対策（熱中症対策を含む）の普及に向けた農作業安全講習や地域巡回指導等での啓発活動の実施
- ④各地域における事故発生状況の農業者への情報提供
- ⑤労災保険等各種災害補償制度への加入促進
- ⑥多面的機能支払交付金の活動対象組織と連携した農作業安全の実施

青森県内の農作業事故発生状況について

1 事故発生状況

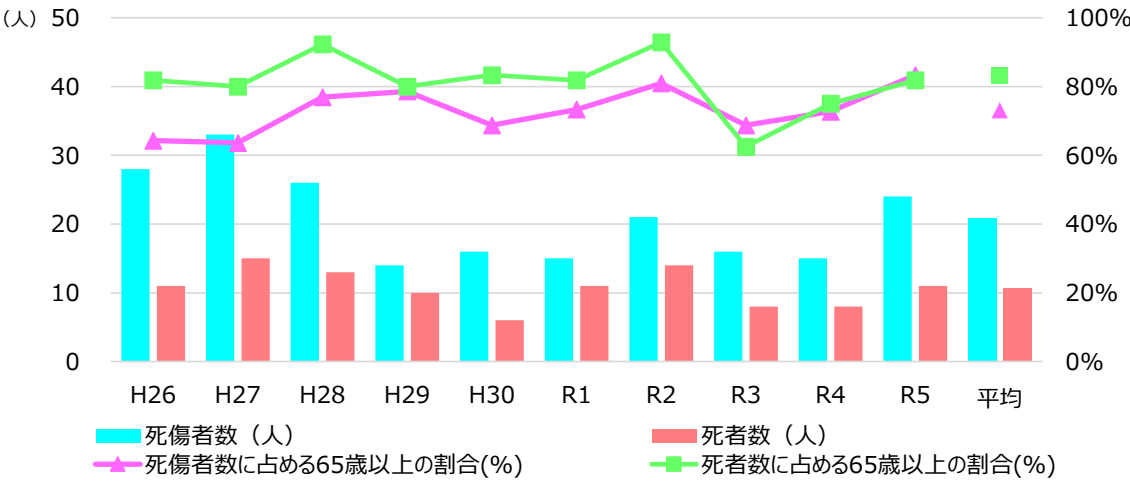
- ・令和 5 年の事故発生件数は 23 件（前年から 8 件増）、死者数は 11 人（前年から 3 人増）であった。
- ・過去 10 年間の平均では、事故発生件数が 21 件、死者数が 11 人となっている。



※調査方法は、新聞等の報道、警察、市町村、農協等からの聴き取り
 なお、令和 5 年は国の死亡個票調査結果が確定されるまでの暫定値

2 高齢者による事故発生状況

- ・令和 5 年の農作業事故の死傷者数における 65 歳以上の割合は 83.3%、死者数では 81.8%であった。
- ・過去 10 年間では、死者数における 65 歳以上の割合は、83.2%となっており、高齢者の割合が非常に高く、死亡事故につながるケースが多い傾向にある。



(死傷者数及び死者数における 65 歳以上の割合)

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	平均
死傷者数 (人)	28	33	26	14	16	15	21	16	15	24	20.8
うち65歳以上(人)	18	21	20	11	11	11	17	11	12	20	15.2
65歳以上の割合 (%)	64.3	63.6	76.9	78.6	68.8	73.3	81.0	68.8	80.0	83.3	73.1
死者数 (人)	11	15	13	10	6	11	14	8	8	11	10.7
うち65歳以上(人)	9	12	12	8	5	9	13	5	7	9	8.9
65歳以上の割合 (%)	81.8	80.0	92.3	80.0	83.3	81.8	92.9	62.5	87.5	81.8	83.2

3 農機具別発生状況

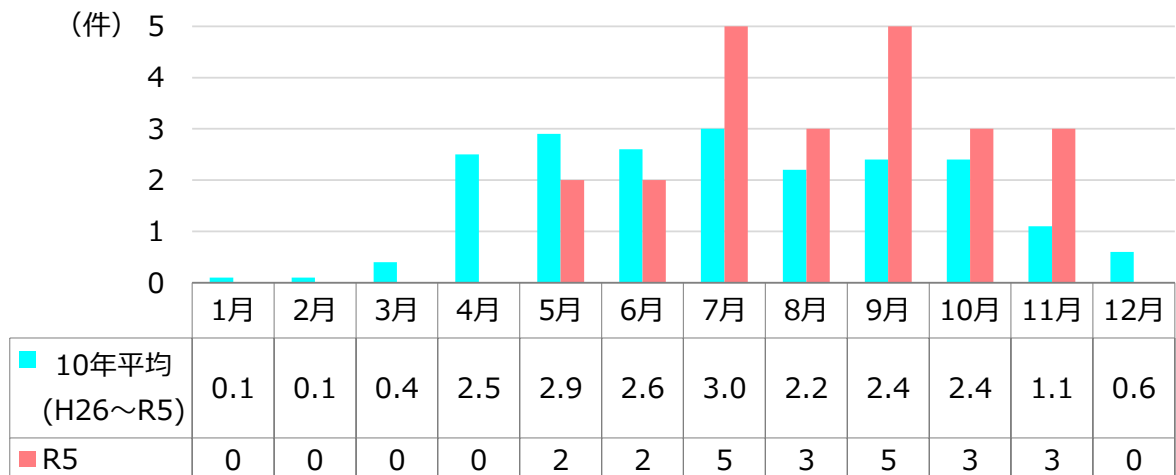
- 令和5年の農機具別事故発生件数は、乗用トラクター3件、スピードスプレーヤー2件、乗用草刈機2件、機械なし8件などであった。
- 平成26年～令和5年の10か年で最も事故発生件数が多いのは、乗用トラクターによる事故で全体の16.7%を占めているほか、脚立が11.3%、スピードスプレーヤーによる事故が9.9%となっている。
- 乗用トラクターは、農作業での使用頻度が高いことから、事故件数が多くなっているものと考えられる。
- 本県ではスピードスプレーヤー、高所作業台車、乗用草刈機、脚立といった果樹で 사용되는機械等の事故件数の発生が多いのも特徴である。

機種	R5		R4		10か年（H26～R5合計）			
	事故件数	割合%	事故件数	割合%	事故件数	割合%	死者数	割合%
<u>乗用トラクター</u>	3	13.0%	1	6.7%	<u>34</u>	<u>16.7%</u>	<u>28</u>	<u>26.2%</u>
歩行用トラクター	0	0.0%	0	0.0%	4	2.0%	3	2.8%
<u>スピードスプレーヤー</u>	2	8.7%	2	13.3%	<u>20</u>	<u>9.9%</u>	<u>10</u>	<u>9.3%</u>
農作業用運搬車	1	4.3%	1	6.7%	6	3.0%	3	2.8%
<u>乗用草刈機</u>	2	8.7%	0	0.0%	<u>13</u>	<u>6.4%</u>	<u>8</u>	<u>7.5%</u>
歩行型草刈機	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	0	0.0%
コンバイン	1	4.3%	0	0.0%	7	3.4%	3	2.8%
トレンチャー	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%	1	0.9%
田植機	0	0.0%	0	0.0%	2	1.0%	0	0.0%
<u>高所作業台車</u>	1	4.3%	0	0.0%	<u>15</u>	<u>7.4%</u>	<u>9</u>	<u>8.4%</u>
その他	5	21.7%	4	26.7%	47	23.2%	22	20.6%
うち、刈払機	0	0.0%	1	6.7%	5	3.4%	1	0.9%
機械なし	8	34.8%	7	46.7%	52	25.6%	19	17.8%
<u>うち、脚立</u>	2	8.7%	1	6.7%	<u>23</u>	<u>11.3%</u>	<u>9</u>	<u>8.4%</u>
	23	100%	15	100%	203	100%	107	100%

※ R5 その他：薬剤散布機、軽トラック、ロールバレー、マルチャー、けん引トレーラー
R5 機械なし：クマ3件、フレコンバッグ下敷き、熱中症、作業小屋で転倒

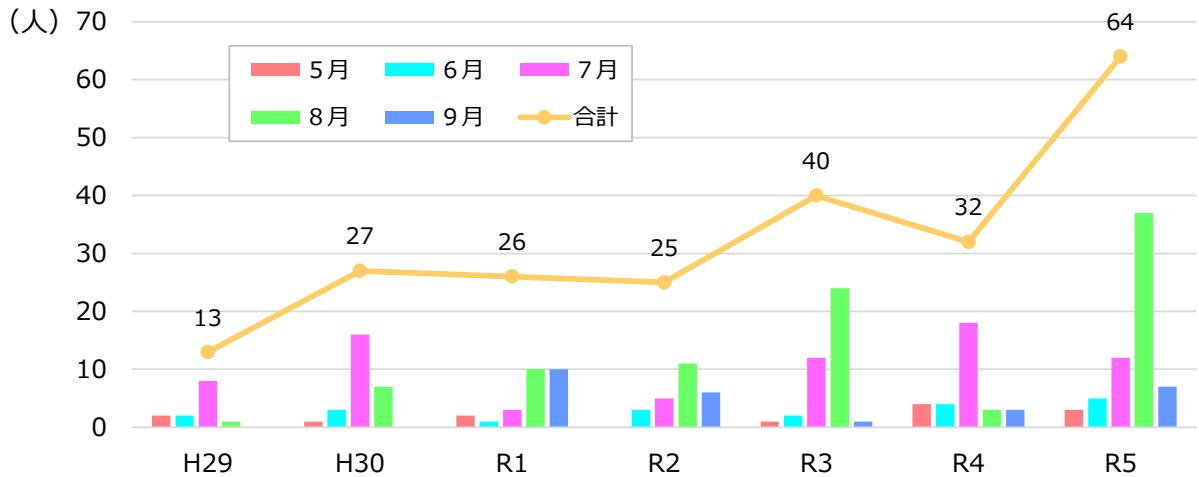
4 月別発生状況

- 令和5年の月別発生件数は5月～11月までの間、月2～5件発生している。
- 過去10年平均の月別発生件数では、4月～10月に事故の発生が目立っている。



5 熱中症による救急搬送状況（追加）

- ・消防庁が公表する「夏期における熱中症による救急搬送人員の調査」によると、過去7年の本県の田畑、森林、海、川等における熱中症による救急搬送者は増加傾向となっている。
- ・令和5年は64名が救急搬送され、1件の死亡事故が発生した。



※消防庁「夏期における熱中症による救急搬送人員の調査」のうち、発生場所が仕事場②田畑、森林、海、川等（農・畜・水産作業を行っている場合のみ）のもの

6 市町村別発生状況

- ・令和5年に農作業事故の発生があった市町村は12市町村で、弘前市が6件で最も多く、次いで五所川原市、六戸町が3件、黒石市、五戸町が2件、平川市、西目屋村、南部町、鶴田町、十和田市、三沢市、七戸町が1件であった。
- ・過去5か年の合計では、弘前市が23件と最も多く、次いで五所川原市が8件、十和田市が7件、黒石市が6件、五戸町が5件などであった。
- ・過去5か年中に農作業事故の発生がなかったのは、14市町村であった。

◆令和5年発生市町村

No	市町村	件数
1	弘前市	6
2	五所川原市	3
3	六戸町	3
4	黒石市	2
5	五戸町	2
6	平川市	1
7	西目屋村	1
8	南部町	1
9	鶴田町	1
10	十和田市	1
11	三沢市	1
12	七戸町	1

◆過去5か年（H31～R5）に発生が多かった市町村

No	市町村	件数
1	弘前市	23
2	五所川原市	8
3	十和田市	7
4	黒石市	6
5	五戸町	5
6	平川市	4
7	南部町	4
8	六戸町	4
9	青森市	3
10	西目屋村	3
11	中泊町	3
12	三沢市	3

◆過去5か年（H31～R5）に発生がなかった市町村

No	市町村
1	今別町
2	外ヶ浜町
3	田舎館村
4	階上町
5	深浦町
6	野辺地町
7	横浜町
8	東北町
9	おいらせ町
10	むつ市
11	大間町
12	東通村
13	風間浦村
14	佐井村